

『祈り続けなさい』 エペソ人への手紙6章18節 2019.2.24 聖日礼拝説教より

『すべての祈りと願いを用いて、どんなときにも御霊によって祈りなさい。そのためには絶えず目をさまして、すべての聖徒のために、忍耐の限りを尽くし、また祈りなさい。』

エペソ人への手紙 6章18節

教会の生命線は祈り！心にあるもの全部、時に主の胸ぐらを掴んで叫ぶ！それは主が、「苦難の日に、わたしを呼べ」と招かれたから。祈りとは「応答」である。神の意に沿わぬとも驚くべき答えが用意される！イエス様の地上の生涯は、父なる神様との交わり(祈り)の日々だった(ルカ 21:36-37、22:39-40)。私たちは祈る者(神に近づき、コミュニケーションをとって生きる者)として創られ、祈りにより応答し、互いに愛し合う。夫婦も同じ(Ⅰペテロ 3:7)！

①祈りのための身支度(6:18-20)…パウロは神の武具の解説後、4回も「祈り」を促す。神の6つの武具は、その祈りのための身支度！①真理の帯を締めて！「祈っています」は口先だけではない。主の心と結ばれ、いつも真実で裏切りなく祈る。②正義の胸当てをつけて！どんなに罪ゆえ心責められても、信じるのは神の贖い(Ⅰヨハネ 3:20)！神の憐れみと救いの恵みを胸に、堂々と大胆に力強く祈れる！③平和の福音の靴を履いて(マタイ 5:9)！「平和」は神が最も実現したいもの。悪魔が一番壊したいもの。主のもとに行く時与えられるのが、魂の安らぎ(平和)マタイ 11:29！この平和の靴を履いてこそ、茨の道を安らかに歩み、福音を届け、無事に目的地(御国)へ！④信仰の大盾に隠れて！あらゆる不安・疑い・怒り…の火矢が心に放たれても、神(大盾)のもとに逃げ込めば安全。神のもとに身を避ける者は、心のゆとり(自分らしさ)を回復され、祈り続ける(詩篇 2:12、4:1)。⑤救いのかぶとをかぶって！…どんな祈りも、救われた喜び、驚き、感謝…が土台。こんなに罪深い者が救っていただけた。「あなたも必ず救われる！大丈夫」！「私はあなたを救えないけど、あの方が」。祈る時、救いの確信しか頭がない！⑥聖霊の与える剣・御言葉を握って(6:18)！「御霊による祈り」とは？あなたを救われるイエス様が「今、ここにおられる」と確信して祈ること。主の臨在は、あらゆる不安・疑い・恐れ…を吹き飛ばす！

②すべての祈りと願いを用いて、御霊によって祈り続ける…祈りと言う祈り、願いという願いのすべてを総動員して神に祈り続けよ。『万物の終わりが近いから』(Ⅰペテロ 4:7)！御霊は、祈る気分でない時も助けて下さる。「神様、祈れません！」…これも立派な祈り！後は聖霊が祈りを導かれる。ローマ 8:26-27

★自分のため、仲間のため、福音宣教のために祈りたい！どんなことでも、全力で神にぶつきたい！あの方は、ご自分の名にかけて、神を愛する者のために、驚きの答えを、必ずくださる！